

～明るい子供に育てるために～

<概要>

今回の僕の提案は、今ある自然の多い公園内に保育園を設け、その中で園児を生活させることで温かい心を持った子供をたくさん育てるというものである。また、都市部でも今までより多くの自然を取り入れた公園を設け、そこでも園児を生活させる。これにより、現代人に不足しがちなゆとりある場所の確保や、また、都市部ではまとまった緑化を図ることも可能になり、さらには、都会の子供がコンクリートジャングルでは学ぶことのできない経験を自然に学ぶことができるものと考えられる。

<本文>

近頃、保育園の敷地面積の狭さが気になる。狭い場所で、それも、限られた遊具で毎日遊ぶため、子供たちの遊びの内容が薄くなっているのではないだろうか。（下図は一般的な保育園の例。）



昔の子供は幼い頃からよく自然の中で遊び、そのなかで自然に学ぶことができた。例えば、夏には虫取りをして生命の力強さと儚さを学び、秋には落ち葉や枝で焚き木をして枯れた植物は燃えやすいことを知ったものである。感受性の高い幼いころにこのような内容の濃い遊びを経験することは、人間の人格を形成する

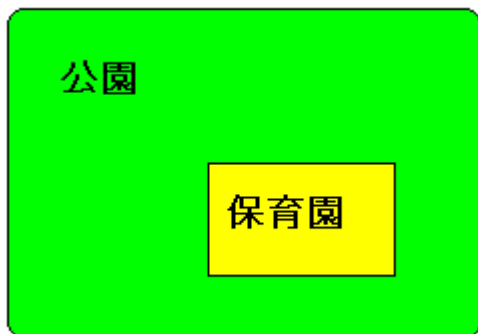
上で非常に大切なことだと思う。ところが現代の子供はどうだろう。自然が減ったため、子供たちの学ぶ場所も減ってしまっている。若年者の異常な犯罪が増えてきているのはこの事が原因ではないだろうか。子供が自分の感情を言葉や体で表現するときは、それまでの経験を振り返って表現するものである。それまでにした経験が学ぶ上で刺激が少なかったり、経験自体が少なかったりすると、表現することができずストレスを感じてしまう。そのストレスが無意識のうちに溜り、ある日突然爆発し、少年犯罪が起こっているのかもしれない。

以上のような理由から、保育園は敷地面積が広く、自然の多く取り入れられた施設でなければならないと思う。また、都市部には人々に安らぎを与えてくれる自然が不足しているように感じる。都市において自然の不足はヒートアイランド現象の原因にもなっていると言われている。そういった意味でも、まとまった自然をもっと取り入れた公園を設けたほうが良いと思う。（下図は福岡市中央区にある舞鶴公園の春の様子。桜の木だけではなく、色々な種類の樹木を植えると人々の興味もより湧くことだろう。）



この二つを同時に満足させるというのが僕の提案である。つまり、今ある自然あふれる公

園や、都市の緑化目的のための公園の敷地内に
保育園を設けるといものである。(下図参照)



例えば、大分市中央町にある裏川公園の中に、
大分市管轄の裏川保育園なる保育園を設立し
てはどうだろうか。(下図は裏川公園の風景。
美しい自然の景色は仕事の休憩時間を過ごす
のに最適である。)



これにより、子供たちは自然あふれる広い場
所でのびのびと遊ぶことができ、心にゆとりが
生まれるだろう。それに、広い場所だと遊具の
取り合いなどのケンカも発生しにくくなる
と思う。もちろん一般の人々も利用するので、ご
みを散らかされることもあろうと思う。しかし、
園児に毎日遊び場所を提供する代わりに、夕方に
掃除をさせれば、常に公園をきれいなまま保つ
ことができ、また、園児たちに自然の大切さを
身につけさせることができる。ただ、広い場所
となると保育士が子供たちを見張っておくの
が少々難しくなるが、そのことを除いては、公
園の自然と子供たちの共存はメリットばかり
である。

参考資料：

- 1)http://tcnweb.ne.jp/~flower/3sakura_maiduru.html
- 2)<http://www.chibies.com/07park.html>